

# クニマスの保全及び養殖技術に関する研究（クニマス資源の動向）

とりまとめ: 青柳敏裕

2010年に西湖で再発見されたクニマスの保護と活用を図るため、クニマスの保全及び養殖技術に関する研究を実施した。本研究は山梨県総合理工学研究機構の課題研究である。ここではクニマス保全の基礎知見となる資源動向に関する調査結果を示す。なお、本研究に関するその他の成果については、別途試験研究の項で個別に報告する。

## 結果の概要

2020年秋の試験採集では猛暑の影響により解禁前後のヒメマスのCPUEが前年より大幅に低下したが、クニマスのCPUEは0.07尾/人・時間と、むしろ前年より上昇した(図1)。2019年度はCPUEの低下を反映してクニマス資源尾数は730尾(寿命6歳と仮定した場合)と大幅に減少したが、2020年度推定資源尾数は7,449尾(同前)と算出された(図2)。しかし産卵場への来遊親魚数の観察値は2017年度に調査開始して以降2019,2020年度に大幅な変動はなく、この2年間で資源水準が大幅に増減したとは考えにくい。試験採集時のクニマス比率が偶然に左右されがちなことや遊漁者数及び総釣果の変動が原因と考えられるが、ミトコンドリアDNAによる種判別のため、もしも交雑が生じれば見かけのクニマス比率が上昇する可能性がある。交雑が生じていないか、定期的に調査が必要と考えられる。

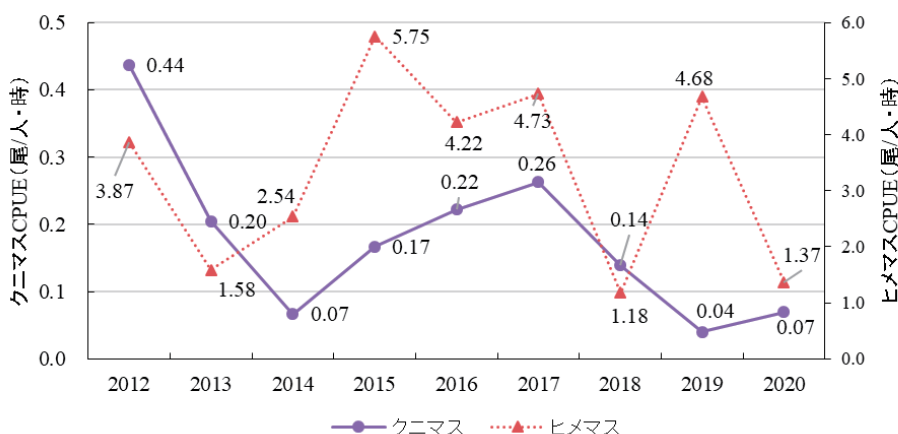


図1 秋の試験採集時のクニマス及びヒメマスのCPUE (1人1時間当たりの平均釣果)

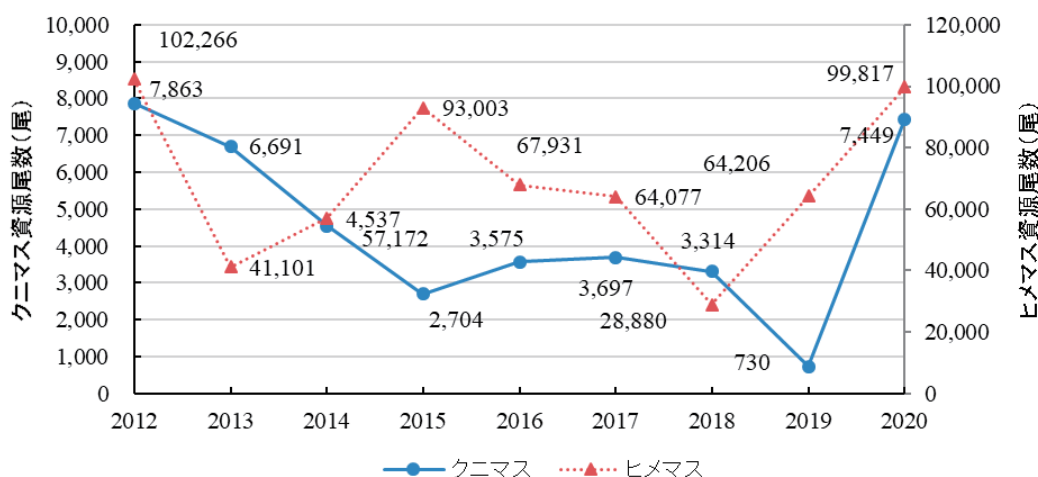


図2 クニマス及びヒメマスの資源推定結果 (1歳以上, 寿命6歳とした場合)